

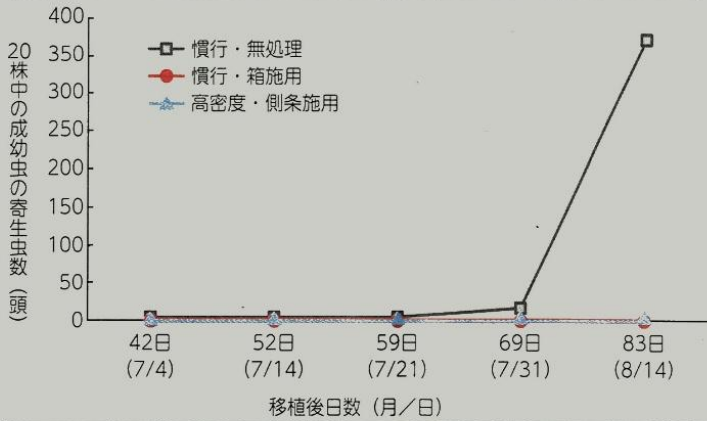
現場で使える！研究成果

水稻なつほのか 高密度播種苗 トビイロウンカ防除に 薬剤側条施用で省力化

経営規模の大きい担い手を中心に、水稻の高密度播種苗移植栽培の普及が進んでいる。本技術は育苗箱1箱当たりの播種量を通常の約2倍に増やすことで、育苗スペースや資材コストの削減が可能となり、移植時に苗を小さくかき取ることで、必要な苗箱数を従来の半数程度まで減らすことが

できる。
近年は高密度に播種する場合の使用量が設定され、1箱当たり50g以上使用することができるよう薬剤もあり、さらに薬剤を側条施用することで、移植前の育苗箱への処理を省略できる。

トビイロウンカ寄生虫数の推移(2023年)
育苗に要する資材費と作業時間(10㎡当たり)



育苗方法	苗箱数 (枚)	資材費 (円)				作業時間 (時間)
		種子	床土	育苗箱	合計	
高密度	11.1	1,665	1,336	2,553	5,554	1.4
慣行	22	1,540	2,649	5,060	9,249	2.6

そこで、トビイロウンカの飛来回数および発生量が特に多くなりやすい5月下旬移植の水稻「なつほのか」を対象に、高密度播種苗移植栽培にお

ける薬剤側条施用の防除効果を検討した。

その結果、なつほのかの高密度播種苗移植栽培において、薬剤を10㎡当たり1㎡側条施用した場合のトビイロウンカに対する防除効果は、慣行苗における箱処理(1箱当たり50g)と同等の高い効果が確認された。グラフ。また、本栽培法は省力化および低コスト化が可能であり、表、薬剤の側条施用を組み合わせることで、防除効果を維持しつつ、さらに省力化を図ることができる。

※側条施用する場合、薬剤の使用量で認められているものを使用すること。

(県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 林万智子)